



応用生態工学会ニュースレター

No.85

Ecology and Civil Engineering Society (ECESJ)

2019 年 (令和元年) 8 月 7 日 (水) 発行

〔発行所〕 応用生態工学会事務局 〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-7-5 麹町ロイヤルビル 405 号室

TEL : 03-5216-8401 FAX : 03-5216-8520 E-mail : eces-manager@ecesj.com HP : <https://www.ecesj.com/>

〔発行者〕 応用生態工学会 (編集責任者: 幹事長 北村 匡, 事務局長 青江 淳)

1	はじめに.....	1
2	応用生態工学会第 23 回総会案内.....	2
3	応用生態工学会第 23 回広島大会案内.....	2
4	第 12 期次期役員募集・推薦委員会報告.....	37
5	第 22 回河川生態学術研究発表会でのポスター発表を募集します....	38
6	行事開催案内	
6.1	第 11 回全国フィールドシンポジウム in 耳川.....	39
6.2	第 18 回北信越現地ワークショップ in 長野.....	42
7	理事会・幹事会報告	
7.1	第 98 回理事会報告.....	46
8	2019 年度行事の経過と今後の予定.....	46
9	事務局より.....	47

1 はじめに

今号では、第 23 回総会案内、第 23 回広島大会案内、第 12 期次期役員募集・推薦委員会報告、第 22 回河川生態学術研究発表会でのポスター発表の募集、各地の活動状況など、学会の動きをお伝えします。

第 23 回総会案内を掲載しました

会員の皆様には、メールまたはハガキで「応用生態工学会第 23 回総会案内」を近々送信・送付します。返信期限 (9 月 13 日 (金)) までに、出欠と、欠席される会員の皆様は委任状を必ず返信いただきますようお願いいたします。総会の成立には正会員の 1 / 5 以上の出席または委任状が必要です。

応用生態工学会第 23 回広島大会案内をお届けします

今年の応用生態工学会第 23 回大会は、9 月 27 日 (金) ~ 30 日 (月) に広島大学東広島キャンパスにおいて開催します。多くの会員の皆様の参加をお待ちしています。

なお、参加申し込みの期限は 9 月 6 日 (金)、参加費振り込みの期限は 9 月 13 日 (金) です。大会運営をスムーズに行うため、早期の申し込みと振り込みにご協力をお願いします。本年度から研究発表会参加費を期限までに振り込みいただく場合は、会員 (正会員・賛助会員)、非会員は 1,000 円割引、学生 (会員・非会員) は 500 円割引となります。

第 12 期次期役員募集・推薦委員会報告を掲載しました

本年9月29日に開催される第23回総会では次期役員を選出が行われますが、その候補者（会長候補、副会長候補、理事候補、監事候補）が決まりました。

『第22回河川生態学術研究発表会』でのポスター発表を募集します

募集するポスターのテーマは、『河川生態におけるEco-DRR』とします。発表を希望する方は、本文の応募・発表要領にしたがって応募願います。

2 応用生態工学会第23回総会案内

応用生態工学会第23回総会を下記のとおり開催いたします。正会員の皆様のご出席をお願いします。

第23回総会は、応用生態工学会第23回広島大会期間中に開催します。

日時：2019年（令和元年）9月29日（日）10：10～11：10

場所：広島大学 東広島キャンパス 理学研究科E棟 E102

なお、総会の成立には正会員の1/5以上の出席が必要です。総会に欠席される正会員の方は、別途、学会事務局より送信・送付した委任状（電子メールまたはハガキ）に必要事項を記入のうえ、9月13日（金）までに事務局までご返信くださいますよう、お願いいたします。

総会資料は、9月上旬にホームページ上で公開する予定ですので、ご確認ください。

3 応用生態工学会第23回広島大会案内

応用生態工学会第23回広島大会

2019年（令和元年）9月27日（金）～9月30日（月）

第23回総会・研究発表会・公開シンポジウム・自由集会・エクスカージョン

1. 大会概要

応用生態工学会では、2019年（令和元年）9月27日（金）～30日（月）に広島県東広島市（広島大学東広島キャンパス）にて、第23回広島大会を開催します。

9月27日（金）～28日（土）に行われる研究発表では、42件の口頭発表、71件のポスター発表が行われます。また、自由集会等は10件の集会等が企画されています。

9月29日（日）には、公開シンポジウム『ここまで進んだ生態系観測技術の最前線』を開催します。環境DNAをはじめとする新たな観測技術が生態系評価に用いられるようになりましたが、これらの新技術の利用は、まだ一部の研究者や技術者に限られています。今後の更なる普及のためには、一般市民を含む河川に関わる多くの人々に情報共有を図る必要があります。本シンポジウムでは、これらの活用が進んでいる海外からの複数の講演者も招いた講演会により国内外の先端事例を共有すると共に、パネルディスカッションを通じて新たな観測技術の今後の可能性や問題点の議論を行います。なお、このシンポジウムは公益財団法人河川財団の河川基金の助成を受けて実施し、一般にも公開します。

大会最終日の9月30日（月）には、広島デルタを形成する一級河川太田川をテーマに、上流に位置する温井ダム、中流で建設中の広島西部山系砂防施設、下流の太田川放水路汽水域干潟を見学するエクス

カーションを行います。

なお、本大会は、建設コンサルタント協会継続教育（CPD）プログラムに申請予定です。

【会場】

- 研究発表（口頭発表）：広島大学東広島キャンパス 生物圏科学研究科C棟
住所：広島県東広島市鏡山一丁目4番4号
- 研究発表（ポスター発表）：広島大学東広島キャンパス 大学会館
住所：広島県東広島市鏡山一丁目4番5号
- 総会・公開シンポジウム：広島大学東広島キャンパス 理学研究科E棟 E102
住所：広島県東広島市鏡山一丁目3番1号
- 懇親会：広島大学東広島キャンパス 西第2福利会館（食堂）
住所：広島県東広島市鏡山一丁目7番1号
URL : <https://www.hiroshima-u.ac.jp/>
- エクスカーション：温井ダム 他

【大会日程】

9月27日（金）

- ・自由集会「グリーンインフラの推進に向けた現場技術者の役割」
9:30～11:30 生物圏科学研究科C棟 C314
- ・自由集会「ウナギの保全と河川・水辺の自然再生の現状と課題」
9:30～11:30 生物圏科学研究科C棟 C316
- ・自由集会「生物多様性の新たな世界目標（ポスト2020目標）と次期国家戦略のあり方を考える」
9:30～11:30 生物圏科学研究科C棟 C315
- ・ポスター発表（コアタイムA） 11:30～12:30 大学会館大集会室
- ・ポスター発表（コアタイムB） 13:30～14:30 大学会館大集会室
- ・自由集会「河川・ダムに関するデータベースについての意見交換会」
15:00～17:00 生物圏科学研究科C棟 C314
- ・自由集会「環境DNAに携わる実務者の集い」 15:00～17:00 生物圏科学研究科C棟 C316
- ・自由集会「中小河川テキスト刊行にむけて」 15:00～17:00 生物圏科学研究科C棟 C315

9月28日（土）

- ・口頭発表 9:00～12:00 生物圏科学研究科C棟 C206, C314, C316
13:00～14:00 生物圏科学研究科C棟 C206, C314, C316
- ・若手の会「ランチミーティング2019」 12:00～13:00 生物圏科学研究科C棟 C316
- ・自由集会「汽水域の環境と自然再生3」 13:00～15:00 生物圏科学研究科C棟 C316
- ・自由集会「ダム湖・ダム河川の応用生態工学」 14:00～17:30 生物圏科学研究科C棟 C206
- ・自由集会「田んぼのいきものをどうやって守っていくか？その4」
15:30～17:30 生物圏科学研究科C棟 C314
- ・懇親会 18:00～20:00 西第2福利会館（食堂）

9月29日（日）

- ・総会 10:30～11:30 理学研究科E棟 E102
- ・発表賞表彰 11:30～12:00 理学研究科E棟 E102
- ・公開シンポジウム

「ここまで進んだ生態系観測技術の最前線」

13:00～17:00 理学研究科E棟 E102

9月30日(月)

エクスカージョン

- 09:00 「JR広島駅」集合, 貸切バスにて出発
 温井ダム(見学)～安芸の友(昼食)～広島西部山系砂防施設(見学)～太田川放水路汽水域干潟(見学)
- 16:30 「JR広島駅」解散(道路交通事情により到着時間が異なります.)

<参加/発表される皆様へ>

《受付》

- ・9月27日(金)は, 9:00から参加の受付を開始します。受付は, 時間帯によって非常に混雑することが予想されます。早めに受付をお済ませください。
- ・9月28日(土)は, 8:30から参加の受付を開始します。発表者のパワーポイントファイルの受付は8:30から各発表会場にて行います。
- ・受付は生物圏科学研究科C棟2Fのロビーです。名札をお渡ししますので, 会場内では必ず名札を付けてください。
- ・9月29日(日)の総会は, 10:00から参加の受付を開始します。
- ・9月29日(日)の公開シンポジウムは, 12:30から参加の受付を開始します。公開シンポジウムのみに参加される方は無料です。
- ・9月30日(月)のエクスカージョンは, 参加申し込みをされた方に, 集合や移動, 注意事項等の詳細を改めてお知らせします。
- ・大会期間中に学内で使用できるWi-Fiを準備しています。希望者は, 受付時に, 受付横に設置したWi-Fi ID付与スペースで, ID及び接続マニュアルをお受け取りください。

《口頭発表される方へ》

- ・口頭発表は全て備え付けのパソコンとプロジェクターで行います。パソコンの持ち込みはできません。OSはWindows 10, プレゼンテーションソフトはPower Point 2019 (Office 2019)です。Mac, 古いバージョンのPower Point, あるいはその他のソフトでプレゼンテーションを作成される方は, 事前にPower Point 2019で動作するか確認を行ってください(動作確認を希望される方は会場係に申し出てください)。また, 備え付けのパソコンは, 通常のWindows 10日本語版で標準にインストールされているフォントのみが表示できます。
- ・パワーポイントのファイルは, 発表番号と発表者の名字の英語表記をファイル名とし(例: A01_osugi), 発表会場の受付に提出してください。ファイルはウィルスに感染していないことを確認のうえ, USBメモリ, またはSDカードで持参してください(MO, DVD, CD-RWは不可)。提出期限は以下のとおりです。

9月28日(土)	午前セッション (A, B, C, D, E, F)	9:00 まで
	午後セッション (G, H)	12:00 まで

- ・発表時間は発表12分, 質疑応答3分の合計15分です。1鈴:10分, 2鈴:12分, 3鈴:14分30秒です。時間厳守にご協力ください。

- ・発表直前にパソコンへファイルをコピーされる場合は、その作業時間も発表時間とみなします。上記提出期限までにファイルを提出していただくことをお勧めします。
- ・パソコンの操作は基本的に会場係が行いますが、自分で操作される方は会場係にお伝えください。

《ポスター発表される方へ》

- ・ポスター発表の会場は、大学会館大集会室です。パネルにポスター番号を貼り付けていますので、ご自分の発表番号のパネルにポスターを貼り付けてください。
- ・ポスターは横 90 cm, 縦 170 cm 以内のサイズで作製してください。ただし、縦のサイズは床からのパネル高さのため、見やすい位置に貼り付けられるポスターサイズをお勧めします (A0 判 841mm×1,189mm を推奨します)。
- ・ポスターの上部に演題・発表者・所属を書いてください。発表者が複数の場合は、代表発表者の名前の前に○印を付けてください。
- ・ポスターの掲示期間は9月27日(金)～28日(土)15:30までの期間とし、ポスターは27日(金)の9:00～11:00の間に持参者自身で掲示してください。
- ・ポスター発表の発表件数が多いため、コアタイムは2部制にいたします。各コアタイムとも1時間です。
- ・コアタイムA (発表番号末尾奇数の方) は、9月27日(金)11:30～12:30, コアタイムB (発表番号末尾偶数の方) は、9月27日(金)13:30～14:30です。ご自身のコアタイムのスケジュールをご確認され、自分の該当するコアタイムでは、ポスターの前で発表を行ってください。
- ・ポスターの撤収は、9月28日(土)15:30～16:30までに持参者自身で行ってください。掲示時間を過ぎてもポスターを貼り付けたままの場合は、実行委員がポスターを取り外します。取り外したポスターは、大会期間中は実行委員会で保管いたしますが、大会後は処分します。
- ・ポスターの事前送付は、事故防止のため一切受け付けません。発表当日に各自で持参してください。ポスターを貼り付けるテープは会場に準備しています。指示棒などは各自持参してください。
- ・PCなどの電子機器でデモンストレーションを行っても構いませんが、電源はありません。また、大きな音の鳴るデモンストレーションなど、周囲の発表者への迷惑となる行為はご遠慮ください。

《発表賞》

- ・申請のあった若手研究者、現場技術者または行政担当者の発表から優秀発表賞を選定します。研究の内容、プレゼンテーション技術などを基準に審査します。口頭/ポスターおよび研究/事例の各類別(全4類別)について秀でた発表に優秀発表賞(各若干名)を、最も秀でた口頭発表およびポスター発表に最優秀発表賞(各1名)を授与します。
- ・29日(日)の総会(10:30～11:30)に続いて、優秀発表賞の表彰を行います。
- ・発表者が変更となる場合は、事務局へ申し出てください。

《CPD》

- ・CPD受講証明書については、各日の午前と午後の配布とし、午前は13:00から、午後は当日の全てのプログラム終了後に受付でお渡しします。

《クローク》

- ・クロークを9月27日と9月28日に開設します。場所は、C棟3階のC308講義室です。開設時間は、8:30～17:45です。なお、貴重品に関しては、預かりかねますので、ご自身で管理をお願いします。

2. 公開シンポジウム

<このシンポジウムは、公益財団法人 河川財団の河川基金の助成を受けています。>

【テーマ】

「ここまで進んだ生態系観測技術の最前線」

【企画のねらい】

環境 DNA をはじめとする新たな観測技術が生態系評価に用いられるようになりましたが、これらの新技術の利用は、まだ一部の研究者や技術者に限られています。今後の更なる普及のためには、一般市民を含む河川に関わる多くの人々に情報共有を図る必要があります。本シンポジウムでは、これらの活用が進んでいる海外からの複数の講演者も招いた講演会により国内外の先端事例を共有すると共に、パネルディスカッションを通じて新たな観測技術の今後の可能性や問題点の議論を行います。

【プログラム(タイトルは仮題です)】

13:00～13:05 挨拶・趣旨説明

渡辺 幸三 (愛媛大学 教授、応用生態工学会国際交流委員長)

13:05～13:50 招待講演 1 「DNA に基づく空間的・時間的な環境評価」

Mehrdad Hajibabaei (ゲルフ大学 (カナダ) 准教授)

13:50～14:35 招待講演 2 「現場自動観測を用いた藻類ブルームの理解と予測」

Francesco Pomati (スイス連邦水科学技術研究所 上席研究員)

14:35～14:55 講演 1 「環境 DNA 検出・メタバーコーディングによる生物多様性評価手法」

土居 秀幸 (兵庫県立大学 准教授)

14:55～15:15 講演 2 「統計にはもう頼らない?機械学習の発展から見たデータ解析の最前線」

梁 政寛 (ベルリン自由大学 (ドイツ) JSPS 海外特別研究員)

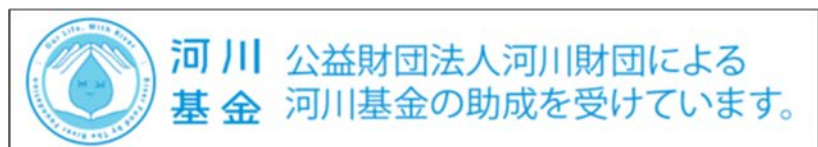
15:15～15:35 講演 3 「先端技術を用いた川づくり」

舟橋 弥生 (国土交通省 河川環境保全調整官)

15:45～17:00 パネルディスカッション

コーディネーター: 渡辺 幸三、パネリスト: 講演者 5 名

【参加費】 無料



参加費無料・事前申込不要
同時通訳あり

応用生態工学会 第23回広島大会 公開シンポジウム

「ここまで進んだ生態系観測技術の最前線」

【日時】 令和元年9月29日(日) 13:00~17:00

【場所】 広島大学東広島キャンパス
理学研究科 E棟 1F E102 講義室



●お問い合わせ先
応用生態工学会事務局
〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-7-5
麹町ロイヤルビル 405号室
TEL : 03-5216-8401 FAX : 03-5216-8520
E-mail : 23th_hiroshima_secretariat@ecesj.com

【開催主旨】

環境 DNA をはじめとする新たな観測技術が生態系評価に用いられるようになりましたが、これらの新技術の利用は、まだ一部の研究者や技術者に限られています。今後の更なる普及のためには、一般市民を含む河川に関わる多くの人々に情報共有を図る必要があります。本シンポジウムでは、これらの活用が進んだ海外からの複数の講演者も招いた講演会により国内外の先端事例を共有すると共に、パネルディスカッションを通じて新たな観測技術の今後の可能性や問題点の議論を行います。

【プログラム(タイトルは仮題です)】

- 13:00~13:05 挨拶・趣旨説明
渡辺 幸三 (愛媛大学 教授、応用生態工学会国際交流委員長)
- 13:05~13:50 招待講演1 「DNAに基づく空間的・時間的な環境評価」
Mehrddad Hajibabaei (ゲルフ大学(カナダ) 准教授)
- 13:50~14:35 招待講演2 「現場自動観測を用いた藻類ブルームの理解と予測」
Francesco Pomati (スイス連邦水科学技術研究所 上席研究員)
- 14:35~14:55 講演1 「環境DNA検出・メタバーコーディングによる生物多様性評価手法」
土居 秀幸 (兵庫県立大学 准教授)
- 14:55~15:15 講演2 「統計にはもう頼らない? 機械学習の発展から見たデータ解析の最前線」
梁 政寛 (ベルリン自由大学(ドイツ) JSPS 海外特別研究員)
- 15:15~15:35 講演3 「先端技術を用いた川づくり」
舟橋 弥生 (国土交通省 河川環境保全調整官)
- 15:35~15:45 <休憩>
- 15:45~17:00 パネルディスカッション
コーディネーター: 渡辺 幸三、パネリスト: 講演者5名

●交通案内



**河川 公益財団法人河川財団による
基金 河川基金の助成を受けています。**

3. 自由集会 等

10件の自由集会が開催されます。集会には所属等によらず参加でき、事前申込は不要です。

A. 「グリーンインフラの推進に向けた現場技術者の役割」

【企画】 小笠原 奨悟 (パシフィックコンサルタンツ株式会社), 幸福 智 (いであ株式会社), 池田 正 (八千代エンジニアリング株式会社), 渡邊 敬史 (株式会社建設技術研究所), 長谷川 啓一 (株式会社福山コンサルタント)

【日時・会場】 9月27日(金)9:30~11:30 C314 講義室

【趣旨】 グリーンインフラは、応用生態工学会の目指す「生態学と土木工学の境界領域」に位置する概念であり、持続可能な社会の形成に向けた施策として、期待が高まっている。令和元年7月には、国土交通省がグリーンインフラの活用を推進すべき場面や推進するための方策をとりまとめた「グリーンインフラ推進戦略」を公表し、気候変動への対応や、投資や人材を呼び込む都市空間の形成等へのさらなる貢献が期待されている。

一方で、今後の推進に向けては、研究者や行政だけではなく、民間企業や地域住民なども含む、多様なステークホルダーの連携が必要であり、その中で建設コンサルタントが貢献できることもあるのではないだろうか。

本集会では、建設コンサルタントの立場から、グリーンインフラを推進するにあたって必要だと考えられる技術や計画論についての提言を行いたい。また、自由集会の参加者との双方向の議論を通じて、現行の枠組みにとらわれない幅広い視野での議論や多様なステークホルダーの連携が、ますます活発に行われることを期待している。

【プログラム】

①趣旨説明

小笠原 奨悟 (パシフィックコンサルタンツ株式会社)

②グリーンインフラの推進のために求められる技術・計画論

幸福 智 (いであ株式会社)

小笠原 奨悟 (パシフィックコンサルタンツ株式会社)

長谷川 啓一 (株式会社福山コンサルタント)

渡邊 敬史 (株式会社建設技術研究所)

池田 正 (八千代エンジニアリング株式会社)

③ディスカッション：グリーンインフラによる地域づくりに向けて

B. 「ウナギの保全と河川・水辺の自然再生の現状と課題」

【企画】 久米 学・山下 洋 (京都大学フィールド科学教育研究センター)

【日時・会場】 9月27日(金)9:30~11:30 C316 講義室

【内容】 ニホンウナギは近年、急激に減少し絶滅の危機に瀕している。本種は、水産業における重要魚種であり、かつ河川生態系の頂点に位置する魚種であることから、河川生態系の保全における鍵種・シンボル種の地位にあると言えるだろう。これらのことはすなわち、応用生態工学の観点から考えると、ウナギあるいはその生息場所の保全を目的とした水辺の自然再生は、ホットトピックスとなり得るはずである。しかしながら、河川生活期のウナギに対する保全策については、その効果に科学的根拠がなく、極めて成長が悪い劣等生の養鰻を放流する事業が行

われるのみである。これは、河川生活期におけるウナギの極めて基礎的な生態学的知見である生息場所利用についてすらも、未解明であることに依拠するものと思われる。そこで本集会では、まず河川生活期のウナギの生態全般について脇谷氏より紹介し、次にウナギの河川における生息環境について異なる河川スケールの研究を松重氏と久米氏より紹介し、次に近年モニタリングツールとして注目されている石倉カゴを用いた実践活動を伏見氏より紹介する。これらを踏まえて総合討論において、ウナギの保全に有効な水辺の自然再生を目指す上での現状の問題点と今後の方向性について、より具体的に議論を深めたい。

【プログラム】

1. 趣旨説明 森里海連環学とニホンウナギ研究

山下 洋 (京都大学フィールド科学教育研究センター)

2. 講演

・ウナギの河川生態

脇谷 量子郎 (中央大学研究開発機構)

・川ウナギの分布と生息環境：堰の影響と微生物環境に着目して

久米 学 (京都大学フィールド科学教育研究センター)

・ウナギの生息地利用：リーチスケールとユニットスケールに着目して

松重 一輝 (九州大学大学院農学研究科)

・ウナギの棲み処づくり 今は石倉カゴだけ-1 水産庁が動いた

柵瀬 信夫 (鹿島建設)

・ウナギの棲み処づくり 今は石倉カゴだけ-2 静岡 河川管理者の実行

伏見 直基 (フタバコーケン)

3. 総合討論

コメンテーター：木村 伸吾 (東京大学大気海洋研究所)・鬼倉 徳雄 (九州大学水産実験所)

C. 「生物多様性の新たな世界目標（ポスト 2020 目標）と次期国家戦略のあり方を考える～グリーンインフラやEco-DRR などを通じたレジリエンス強化の観点から～」

【企画者】渡辺 綱男 (国連大学), 蔵本 洋介 (環境省)

【日時・会場】9月27日(金)9:30～11:30 C315 講義室

【内容】2010年に愛知県名古屋市で開催された生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)では、生物多様性条約の2050年のビジョンである「自然と共生する世界(Living in harmony with nature)」とともに、この達成に向けた2020年を目標年とする世界目標として「愛知目標」が採択された。現在、次の世界目標となる「ポスト2020目標」について、2020年に中国で開催されるCOP15での採択を目指して世界中で議論が行われている。

ポスト2020目標の要素として、日本からは生態系を活用した防災・減災(Eco-DRR)や生態系を活用した適応(EbA)などの「生態系を基盤とするアプローチ(Ecosystem-based Approaches)」による取組を重視する意見を条約事務局に対して提出しており、これらは次期生物多様性国家戦略においても重要な考え方となり得る。

この自由集会では、本学会が目指す「自然環境の保全と人間の暮らしの調和」、「自然環境や

地域の社会・経済のレジリエンス強化」などの観点から、グリーンインフラや Eco-DRR などを切り口に、ポスト 2020 目標や次期生物多様性国家戦略のあり方を議論したい。

【プログラム】

上記の内容に沿って、応用生態工学会、他分野（生態学、社会学や防災の視点）、コンサルタントや NGO などの民間、環境省や国交省といった行政から、4~6 名が話題提供を行い、参加者間でディスカッションを行う予定です。

D. 「河川・ダムに関するデータベースについての意見交換会」

【企画者】中村 太士（北大）・一柳 英隆（WEC）

【日時・会場】9月27日(金)15:00~17:00 C314 講義室

【内容】日本の河川・ダムでは、国土交通省やその他管理者が、流量や水位、水温・水質、生息する生物相（河川水辺の国勢調査）など多くのデータを継続的に取得している。これらのデータを集約して整理することで、個人の取得のみでは成し得ない広域・長期の解析が可能になる。しかし、これらのデータは、河川・ダム管理者が使用する前提で管理されており、広域・長期で利用しようとする研究者にとっては必ずしも利用しやすい形にはなっていない。この意見交換会は、研究者側と河川・ダム管理者との意見交換を行い、両者にとって良い形を探ろうとするものであり、今年度が 3 回目である。意見交換を継続し、より良く展開できるようにしたい。

【プログラム】

○議論整理・対応報告・話題提供

- ・昨年度までの議論の総括：一柳 英隆（WEC）
- ・国土交通省における水情報国土の改変とデータベース整理：舟橋 弥生（国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課）
- ・話題提供：田和 康太（土木研究所）『河川水辺の国勢調査の鳥類データを利用する』

○意見交換

【意見交換者】

- ・国立研究開発法人 土木研究所 自然共生研究センター：森 照貴
- ・国立研究開発法人 土木研究所 自然共生研究センター：末吉 正尚
- ・一般財団法人水源地環境センター：大杉 奉功
- ・公益財団法人リバーフロント研究所：都築 隆禎
- ・一般財団法人河川情報センター：清新
- ・会場の方々

E. 「環境 DNA に携わる実務者の集い」

【企画者】澤樹 征司（株式会社建設技術研究所東京本社環境部）

【日時・会場】9月27日(金)15:00~17:00 C316 講義室

【内容】環境 DNA は、これまでに学・官の分野で精力的に研究が進められ、学会をはじめとして様々なネットワークも形成されてきています。

一方、民間企業でも普及や技術の習得に向けた取組みが行われているものの、関係各社でネットワークをつくり情報を交換・共有できる機会はまだまだ多くはなく、多くの技術者が個々のお立場で孤軍奮闘を強いられている状況があると推察しています。

そのような中、実務にて環境 DNA を適用する・したい事例も次第に増加してくると思われるため、実務者が安心して当該技術を駆使できるよう、健全に情報を交換・共有できる文化や場があると望ましいのではないかと考えています。

そこでこの「学会の場」をお借りし、建設コンサルタント、調査会社、分析会社の実務者の方にお集まりいただき、環境 DNA をとりまく現在の悩みや不安、疑問や解決に向けたアイデア、今後の各主体の連携のあり方を話し合い、共有する場を設けたいと思います。

【プログラム】

〈主旨説明〉

(株式会社 建設技術研究所 澤樹 征司)

〈話題提供〉

①建設コンサルタントの視点から：業務での環境 DNA 技術適用の取組みと悩み

(株式会社 建設技術研究所 澤樹 征司)

②建設コンサルタントの視点から：環境 DNA は「使える」の？ (仮)

(株式会社 建設環境研究所 宮脇 成生)

③調査会社の視点から：一筋縄ではいかない環境 DNA 分析の背景と課題解決への模索

(株式会社 コンパス 藤本 卓矢)

④調査会社の視点から：環境 DNA 調査のデータは宝の山？ 得られたデータをどう活用するか

(一般財団法人 九州環境管理協会 大井 和之)

⑤分析会社の視点から：元大学研究者からみた環境 DNA の将来 (予定)

(株式会社 生物技研 伊知地 稔)

⑥分析会社の視点から：DNA 分析業への参入の道のり (仮)

(株式会社 環境総合リサーチ 玉田 貴)

⑦行政サイドの視点から：環境 DNA の実用化に向けて実務者に望みたいこと

(国立研究開発法人 土木研究所 中村 圭吾)

〈休息〉

〈総合ディスカッション〉

テーマ：環境 DNA の実務での活用に向けた実務者の取組みと連携のあり方について

(コメンテーター：国立研究開発法人土木研究所 村岡 敬子)

F. 「応用生態工学会 テキスト刊行委員会～中小河川テキスト刊行に向けて」

【企画者】河口 洋一 (徳島大学, 応用生態工学会テキスト刊行委員会委員長)

【日時・会場】9月27日(金) 15:00~17:00 C315 講義室

【内容】応用生態工学会テキスト刊行委員会では、成果の還元、会員へのサービスの向上を目的として、応用生態工学の入門書となるテキストの刊行を企画しており、現在、「中小河川の多自然川づくり」を対象としたテキストの刊行準備を進めています。

本自由集会では、中小河川テキストの刊行に向けて、現在予定されているテキストの内容について各担当者から紹介するとともに、会員の皆様から内容に関する意見や提案を伺い、意見交換を行います。実務・研究の多方面から会員の皆様の幅広い参加をお待ちしております。

【プログラム】

1. 応用生態工学会テキスト企画趣旨
河川 洋一 (徳島大学)
2. 中小河川テキストのコンセプトと目次案紹介
島谷 幸宏 (九州大学)
3. 各章の予定内容についての紹介 (予定・調整中)
 - (1) 河川地形・河道計画
萱場 祐一 (土木研究所) ・原田 守啓 (岐阜大学)
 - (2) 生物種と生息環境
鬼倉 徳雄 (九州大学)
 - (3) 河川環境に関する目標設定
皆川 朋子 (熊本大学) ・三橋 弘宗 (兵庫県人と自然の博物館)
4. 意見交換
コーディネーター：島谷 幸宏 (九州大学)
コメンテーター：(調整中)

G. 「ダム湖・ダム河川の応用生態工学～水源地生態研究会この10年の研究から～」

【企画者】 谷田 一三 (大阪府立大学名誉教授), 江崎 保男 (コウノトリの郷公園), 一柳 英隆 (水源地環境センター)

【日時・会場】 9月28日(土) 14:00～17:30 C206 講義室

【内容】 水源地生態研究会は、ダムが生み出す生態系を科学的に把握し、水源地域の保全のあり方を探求することを目的とした研究会です。2008年の設立以降10年間の研究(2008-2012前期, 2014-2018後期)を行ってきました。ここでは、河川やその周辺の生態系に対するダム影響の評価や保全策、ダムにおけるモニタリング手法やデータベース等について、成果を報告し、ダムに関する応用生態工学がどこまで進展したか、次の課題は何か、議論したいと思います。

【プログラム】

概要説明

谷田 一三 『水源地生態研究会の概要』

成果報告

浅見 和弘 (応用地質) 『ダム湖沿岸帯の植生、魚類、管理で出来ること』

竹門 康弘 (京都大学防災研) 『ダム下流河川生態系に対する最適な土砂供給量の考え方』

布野 隆之 (兵庫県立人と自然の博物館) 『DNAバーコーディングを用いた森林性鳥類の餌利用様式の評価』

大森 浩二 (愛媛大学) 『流域生態系の環境変化と生物個体群分断化への影響解析』

鬼倉 徳雄 (九州大学) 『ダム湖流入河川の魚類相変化』

源 利文 (神戸大学) 『環境DNAを用いた魚類モニタリングの実装に向けて』

議論

コーディネーター：江崎 保男

パネリスト：谷田 一三, 辻本 哲郎 (名古屋大学名誉教授), 大森 浩二 (愛媛大学), 薛 孝

夫 (西日本短期大学), 中村 太士 (北海道大学)

H. 「田んぼのいきものをどうやって守っていくか? その 4—水田水域における多様な生物の保全と再生—」

【企画者】 田和 康太 (土木研究所水環境研究グループ河川生態チーム)・佐川 志朗 (兵庫県立大学/兵庫県立コウノトリの郷公園)・河口 洋一 (徳島大学)

【日時・会場】 9月28日(土)15:30~17:30 C314 講義室

【内容】 全国の様々な地域の水田水域 (水田, ハス田, 休耕田ビオトープ, ため池, 農業用排水路など) において実施された各演者の調査研究を元に, それらの研究成果から見えてきた新たな知見を, どのような実際の保全策に落とし込むことができるのかについて, 話題提供いただく。水田水域における生態学的知見については, まだまだ未解明な点が多々あり, 各演者の有する貴重な研究成果が, 将来的な水田水域における多様な生物の保全に活かされることが, 大いに期待される。今回の総合討論の中で, 最終的に水田域の保全策に関する, いくつかのキーワードを抽出できるように努める。

【プログラム】

<趣旨説明> 田和 康太

<話題提供>

①水田水域と河道域における水生動物群集の生息状況からみえるもの (仮)

田和 康太 (土木研究所)

②休耕田を掘削して造成した湿地ビオトープにおける水生生物の出現状況 (仮)

中島 淳 (福岡県保健環境研究所)

③全国規模の生物多様性データから探る環境保全型農業と耕作放棄の影響 (仮)

片山 直樹 (農研機構農業環境変動研究センター)

④「兵庫県豊岡市におけるビオトープ整備戦略～自然再生アクションプランに基づく科学的スキーム～」(仮)

大逸 優人 (兵庫県立大学地域資源マネジメント研究科/豊岡市役所コウノトリ共生課)・

佐川 志朗 (兵庫県立大学地域資源マネジメント研究科/兵庫県立コウノトリの郷公園)

<総合討論>

司会: 河口 洋一

I. 「汽水域の環境と自然再生 3～汽水域研究事例の共有～」

【企画者】 乾 隆帝 (福岡工業大学), 山本 民次 (広島大学)

【日時・会場】 9月28日(土)13:00~15:00 C316 講義室

【内容】 汽水域は, 特有の生物が生息し, 貴重種も多い特殊な生態系である。しかしながら, 人為的環境変化が, 生態系や生物多様性に負のインパクトを与え続けているため, それらの軽減ならびに自然再生が緊急の課題である。本集会は, 汽水域の環境の変遷を把握し, その生態系の保全・自然再生を目標にした研究事例の共有を目的にしており, 近い将来における自然再生の有効な技術的手法の体系化を目指している。

今回は, 「全国の研究事例の共有」をテーマとして, いくつかの研究事例を紹介し, 今後の汽水域における環境保全ならびに自然再生のあり方について議論したい。

【プログラム】

- 1 イン트로・開催趣旨 乾 隆帝 (福岡工業大)
- 2 中海の環境再生の目指すべき方向～水質・底質カップリングモデルから見えてきたこと
山本 民次 (広大院統合生命), 下田 英実, 平田 真陽 (広大生物生産), 米田 真梨子,
渡辺 健一, 及川 隆仁 (中国電力)
- 3 ヤマトシジミの移動は何に影響されているのか?～室内実験・現場データ・数値計算から
見えてくるもの～
矢島 啓 (島根大)
- 4 太田川市内派川水質と不在地下水との連動特性ーヤマトシジミの漁獲量を考えるー
日比野 忠史 (広島大)
- 5 汽水湖沼における年縞堆積物を用いた近過去～現在の環境変遷の解明
瀬戸 浩二, 香月 興太 (島根大), 園田 武 (東京農大), 山田 和芳 (ふじのくに地球環境
史ミュージアム)
- 6 総合討議

J. 「若手の会 ランチミーティング 2019」

【企画者】 久加 朋子 (若手の会代表)

【日時・会場】 9月28日(土)12:00～13:00 C316 講義室

【内容】 若手の会では、学会に参加する若手研究者、技術者、企業の皆様をつなぐランチミーティングを開催いたします。ランチを食べながら簡単な自己紹介、1年間の活動成果報告、運営委員交代、これから1年間の活動計画共有、自由な歓談等を行います。普段、直接お話することの少ない異分野間の皆様とまたとない懇談の機会です。どなたでも参加できますので、皆様お誘い合わせのうえ、ぜひ(お気軽に)お越しください。

注：昼食は各自でご持参ください。

4. 賛助会員展示コーナー

賛助会員等による企業紹介、技術紹介等の展示を行います。

場所：生物圏科学研究科C棟2Fのロビー

期間：9月27日(金)11:30～28日(土)15:30

【応用生態工学会第23回広島大会における書籍等の展示を募集します】

会員サービスの一環として、応用生態工学会第23回広島大会において書籍等を展示される方または団体を募集します。

【展示要領】

- ・内容：書籍、機材等の展示
- ・申し込み費用：会員または賛助会員は無料
非会員または非賛助会員は別途相談
- ・展示期間：9月27日(金)～9月28日(土)の2日間
- ・場所：広島大学生物圏科学研究科C棟の大会受付スペースの対面

※展示のみとし、販売については購入方法案内紙（申込者が A4 サイズ自由書式で作成、持参したものを展示スペースに設置）による案内をお願いします。

※展示中の展示物の破損等（閲覧等による書籍の破れ等）については、学会及び大会は一切の責任を負いかねます。

※展示物の搬入及び撤去は、原則、申込者にてお願いします。特別な事情により難しい場合は、別途、ご相談ください。

※展示受付は申し込み順とさせて頂き、展示予定スペースの容量を超える場合は申し込みをお断りする場合がございます。

【申し込み方法】

- ・申し込み期限：8月31日（土）17：00まで
- ・申し込み方法：メール件名に「書籍等の展示希望」と明示し、申込者名等の申し込み内容を下記の申し込み先メールアドレス宛にお送りください。

書籍等の展示申込み先：23th_hiroshima_secretariat@ecesj.com

【申し込み内容】

- (1) 申込者名（フリガナ）、所属、会員番号
- (2) 展示物名（書籍名、機材名等）
- (3) 展示物の規格（A5判、X×Y×Z cm等、大きさが分かる情報）
- (4) 連絡先（〒、住所、TEL、FAX、E-mail）

5. エクスカーション

エクスカーションは、広島デルタを形成する一級河川太田川をテーマに、上流に位置する温井ダム、中流で建設中の広島西部山系砂防施設、下流の太田川放水路汽水域干潟を見学します。

温井ダムは、太田川水系初の多目的ダムで、アーチ式のダムとしては、全国で黒部ダムに次ぐ二番目の高さ(156m)を誇ります。温井ダム資料室および堤体下部までのエレベーターとトンネルを通り下流の広場までを見学します。

広島西部山系砂防施設は、平成26年8月に発生した土砂災害を受け、現在工事中の緑井・八木地区の砂防施設を見学します。

太田川放水路汽水域干潟は、災害時の緊急用河川敷道路が整備されており、汽水環境の保全が求められ、平成17年に太田川生態工学研究会が発足しました。平成21年からは干潟実証実験サイトを設け、造成干潟の基盤環境と生物環境について調査検討が行われ、平成25年に太田川放水路河口干潟における生態工学研究報告書がまとめられています。エクスカーションでは干潟実証実験サイトを見学します。

【コース・日程(予定)】

- 9月30日(月) 09：00 「JR広島駅」集合、貸切バスにて出発。
 10：45 温井ダム（見学）
 12：15 安芸の友（昼食 1時間）
 14：00 広島西部山系砂防施設（見学）
 15：00 太田川放水路汽水域干潟（見学）
 16：30 「JR広島駅」解散（道路交通事情により到着時間が異なります。）

※定員40名 先着順とします。

※参加申し込みをされた方には、集合や移動、注意事項等の詳細を改めてお知らせします。

※「JR広島駅」までの交通費は各自負担です。

※悪天候等により見学を中止する場合があります。

6. 懇親会

懇親会は、9月28日(土)18:00から西第2福利会館 食堂(大学会館より川を挟んで西側)で行います。また、毎回好評の「各地域研究会が持ち寄りのお土産」コーナーも充実しております。ぜひご参加ください。

【日時】

令和元年9月28日(土) 18:00~20:00

【会場】

広島大学東広島キャンパス 西第2福利会館 食堂

住所: 〒739-0046 広島県東広島市鏡山一丁目7-1 西第2福利会館

電話: 082-424-0926

7. 参加申し込み方法

【申し込み先】

応用生態工学会ホームページの「参加申込フォーム」もしくは参加申込用紙のFAX送信によりお申込みください。申込期限は9月6日(金)、参加費の振込期限は9月13日(金)です。

参加申込フォーム: https://www.ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=annual_conEntry

FAXによるお申込は、『参加申込書』にご記入のうえ、下記までお申込ください。

FAX宛先: 03-5216-8520

【参加費】

〔1〕研究発表会

会員(正会員・賛助会員): 6,000円(事前振込5,000円)、非会員: 10,000円(事前振込9,000円)、

学生(会員・非会員): 3,000円(事前振込2,500円)

※参加費の振込期限である9月6日(金)までに振り込みいただく場合は、事前振込の割引価格となりますのでその額を振り込みください。

※参加費には講演要旨集が含まれています。講演要旨集のみ希望の方は、3,000円で販売しています。

※大会期間中、大学構内にある学食は、27日(金)のみ営業しています(28日(土)は一部店舗のみ営業)。大学周辺(徒歩20分程度)には飲食店、スーパーマーケット、コンビニエンスストアがあります。別途1,000円でお弁当の用意ができます。希望される方は、参加申込時にあわせてお申し込みください。

〔2〕エクスカージョン

会員(正会員・賛助会員): 2,000円、非会員: 3,000円、学生(会員・非会員): 1,000円

温井ダムから広島西部山系砂防施設へ移動する間に「安芸の友」で昼食時間をとります。昼食は定食(1,000円程度)をご用意いたします。

〔3〕懇親会

会員(正会員・賛助会員)・非会員: 5,000円、学生(会員・非会員): 3,000円

〔4〕事前振込のお願い

エクスカージョン参加費、懇親会参加費、弁当代は割引の対象にはなりません。大会参加費と合わせて事前振込にご協力いただきますようお願いいたします。

【参加料振込先】**〔1〕銀行振込口座**

銀行名：三菱東京 UFJ 銀行麹町中央支店

口座番号：(普通)1302920

〔口座名称〕 応用生態工学会 (オウヨウセイタイコウガクカイ)

〔2〕郵便振替口座

口座番号：00140-7-404275

口座名称：応用生態工学会

8. お問い合わせ先

応用生態工学会事務局

〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-7-5 麹町ロイヤルビル 405号室

TEL：.03-5216-8401 FAX：03-5216-8520

E-mail：23th_hiroshima_secretariat@ecesj.com

－ 会場へのアクセス －

【会場】

〈研究発表・自由集会〉

広島大学 東広島キャンパス
 (口頭発表・自由集会：生物圏科学研究科 C 棟)
 (ポスター発表：大学会館)
 住所：〒739-8528 広島県東広島市

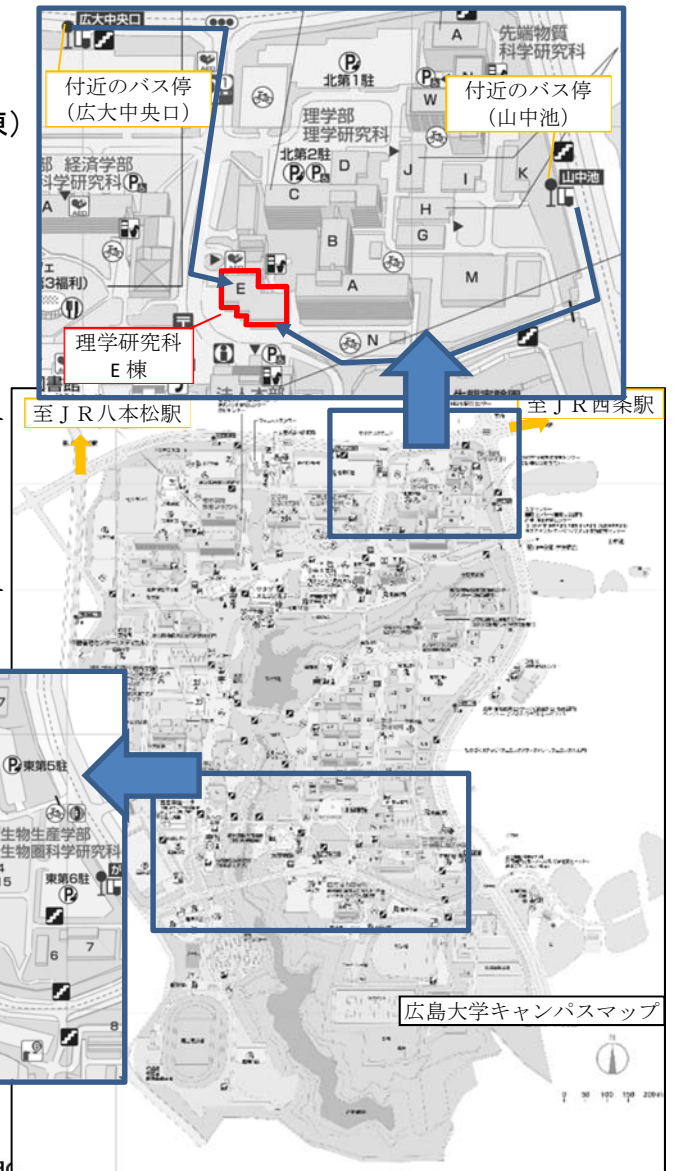
鏡山一丁目 4 番 4 号, 5 号

〈総会・公開シンポジウム〉

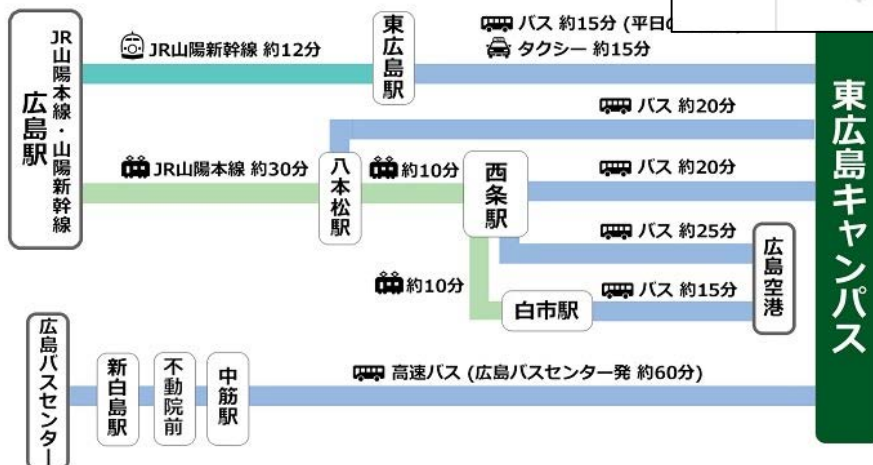
広島大学 東広島キャンパス
 (理学研究科 E 棟)
 住所：〒739-8526 広島県東広島市鏡山一丁目 3 番 1 号

〈懇親会会場〉

広島大学 東広島キャンパス
 (西第 2 福利会館)
 住所：〒739-8528 広島県東広島市鏡山一丁目 7 番 1 号
 URL : <https://www.hiroshima-u.ac.jp/>



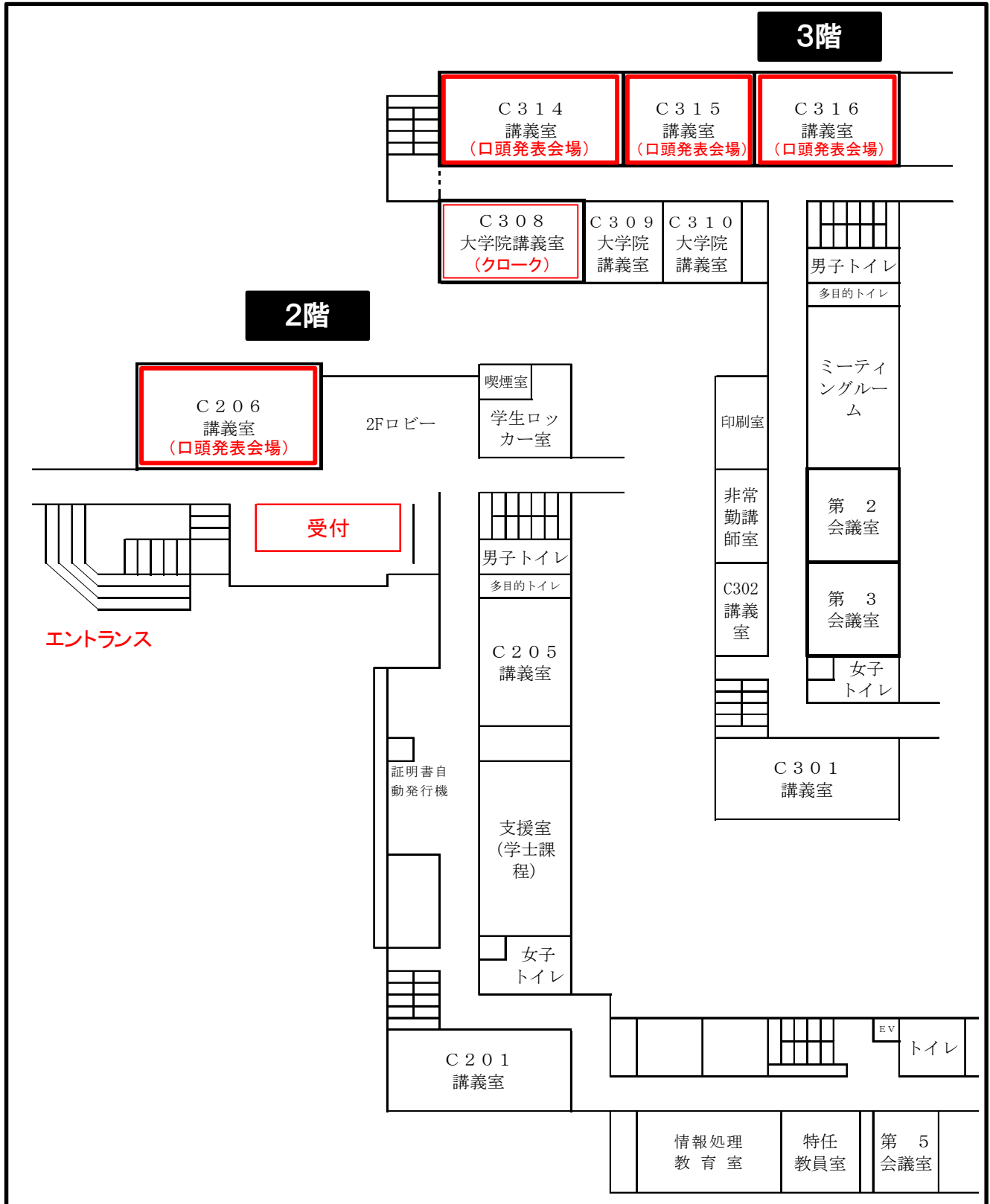
【会場までの主な交通機関】



※バスの時刻表等は大学 HP に記載あり (<https://www.hiroshima-u.ac.jp/access/higashihiroshima>)

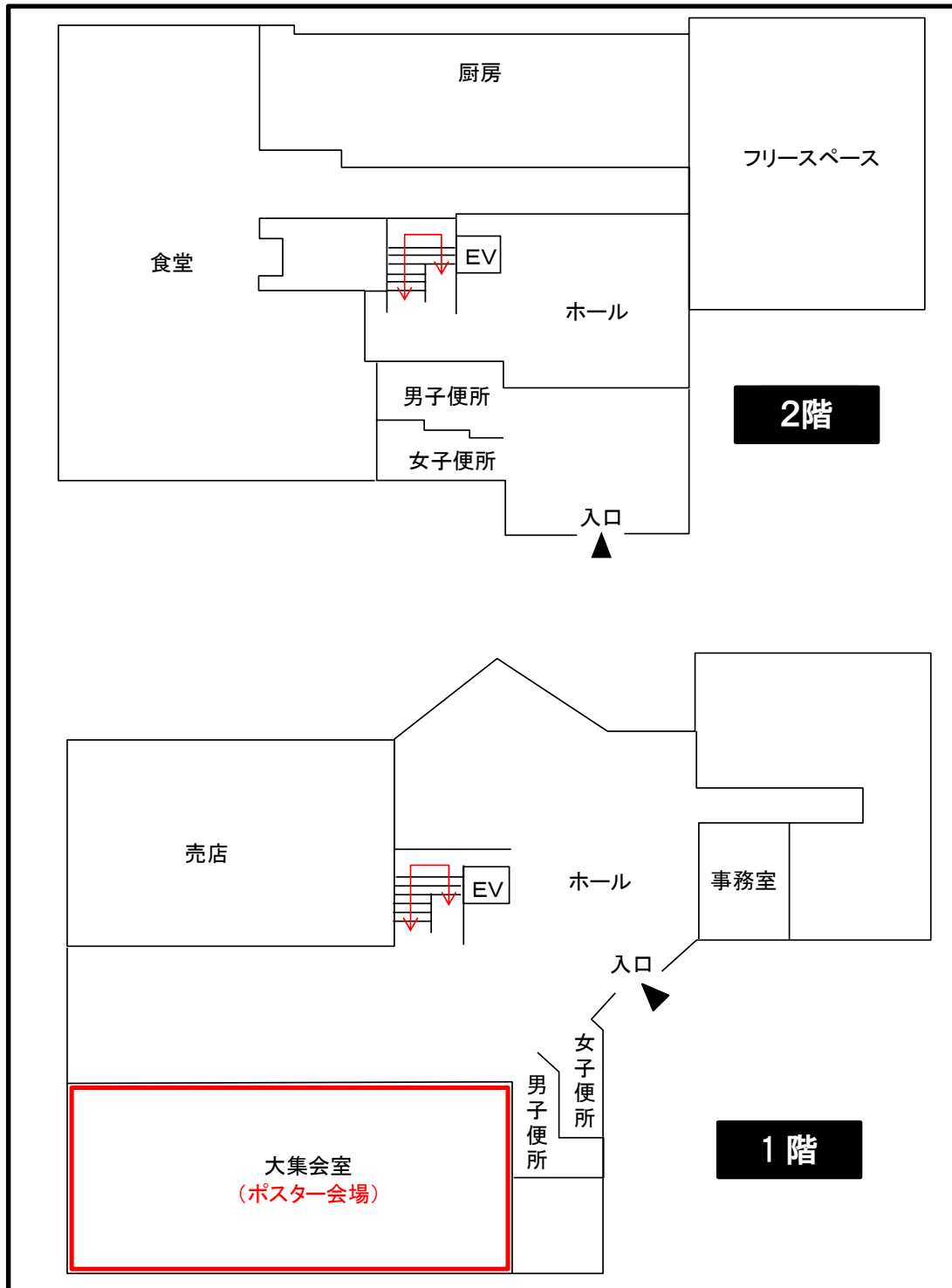
— 会場案内 —

【広島大学東広島キャンパス 生物圏科学研究科C棟：口頭発表等会場】



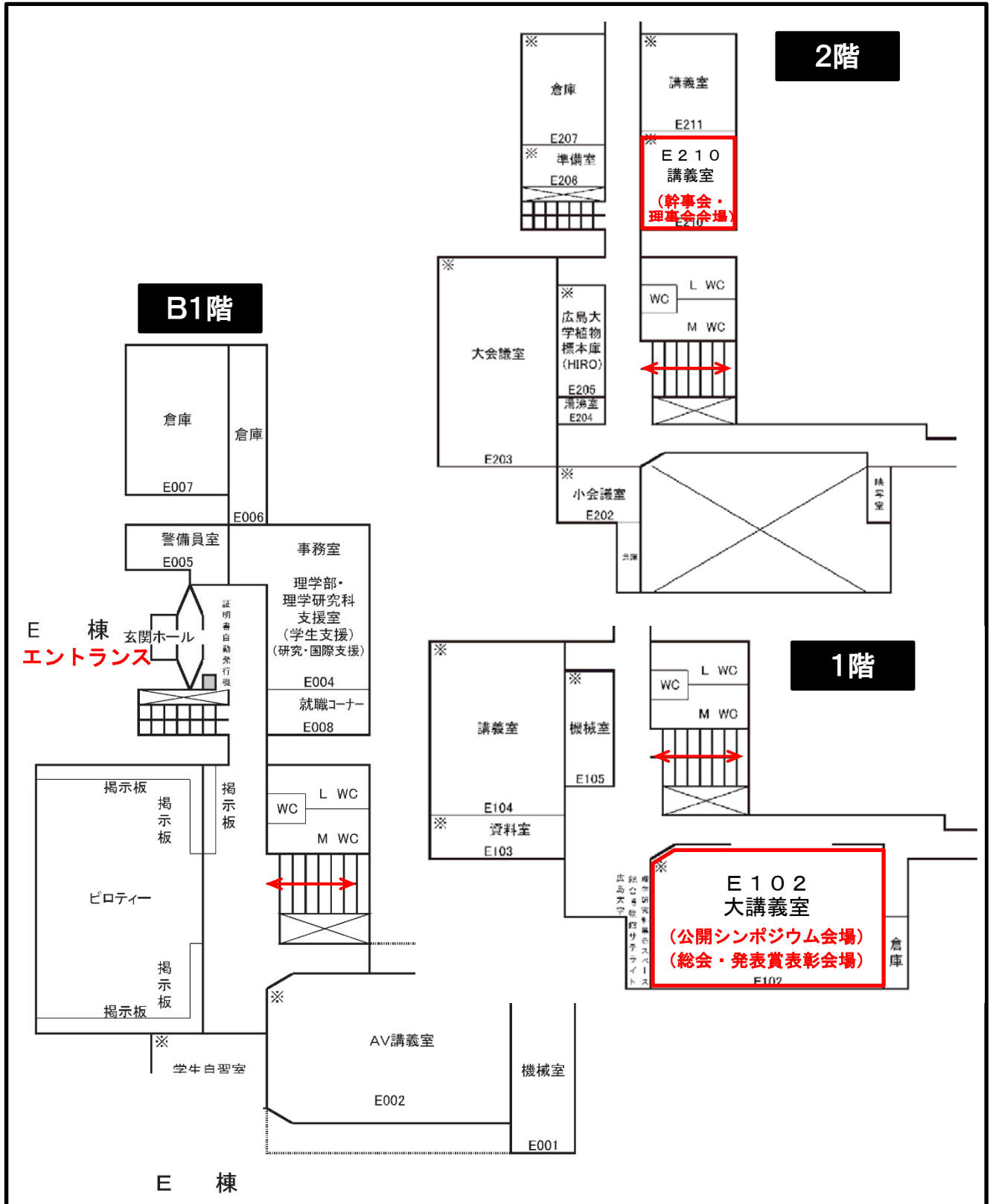
－ 会場案内 －

【広島大学東広島キャンパス 大学会館：ポスター発表会場】



— 会場案内 —

【広島大学東広島キャンパス 理学研究科E棟：公開シンポジウム会場】



－ プログラム・会場対応表 －

9月27日(金)	C206(130名)	C314(100名)	C316(90名)	C315(60名)	第2会議室(20名)	大学会館大集會室	2階ロビー	理学部E102(265名)	理学部E210(81名)	第3会議室(20名)
9:00				受付開始						実行委員控室
9:30	自由集會	自由集會	自由集會	自由集會	自由集會	ポスター展示準備	ポスター展示準備			
11:30						ポスターコアタイムA	ポスターコアタイムA			
12:30						発表時間	発表時間			
13:30						ポスターコアタイムB	ポスターコアタイムB			
14:30						ポスター展示	ポスター展示			
15:00										
15:00										
17:00										
17:00										
9月28日(土)	C206(130名)	C314(100名)	C316(90名)	C315(60名)	第2会議室(20名)	大学会館大集會室	2階ロビー	理学部E102(265名)	理学部E210(81名)	第3会議室(20名)
8:30				受付開始						実行委員控室
9:00	口頭発表A:環境DNA	口頭発表D:河川地形	口頭発表G:産生動物	口頭発表	口頭発表					
9:00	口頭発表B:魚類生態	口頭発表E:産卵場	口頭発表H:保全対策	口頭発表	口頭発表					
12:00				午後の会	午後の会					
12:00				発表時間	発表時間					
14:00	口頭発表C:河川管理	口頭発表F:ハビタット	口頭発表I:汽水域の環境と自	口頭発表	口頭発表					
14:00	自由集會									
15:30										
17:30										
18:00										
18:00										
9月28日(日)	C206(130名)	C314(100名)	C316(90名)	C315(60名)	第2会議室(20名)	大学会館大集會室	2階ロビー	理学部E102(265名)	理学部E210(81名)	第3会議室(20名)
9:00										
10:10										
10:10										
11:10										
11:30										
11:30										
12:00										
12:00										
13:00										
13:00										
9月30日(月)	エクスカーション									
9:00	理井ダム、広島西部山系動物施設、太田川放水遊水域干潟									

－ 研究発表会プログラム －

【研究発表(ポスター発表)】

「○」発表者、タイトルの後の「研」は研究報告、「事」は事例報告、「審」は審査対象

ポスター発表 9月27日(金)－1日目－ 11:30～18:00 [会場:大学会館大集会室]	
9月28日(土)－2日目－ 9:00～15:30 [会場:大学会館大集会室]	
9月27日 11:30～12:30	コアタイムA (発表番号末尾奇数番)
9月27日 13:30～14:30	コアタイムB (発表番号末尾偶数番)
セッションA ICT・AI	
PA-1	フクロウ調査におけるAIの活用に関する検討:事・審 ○芦野洸介(中央復建コンサルタンツ(株))・山内 寛(同)・重吉実和(同)
PA-2	河川のミシシippアカミミガメ生息調査におけるUAVの活用:事 ○山本大輔(矢作川研究所)・浜崎健児(同)・矢部隆(愛知学泉大学)・田村ユカ(名古屋大学)
PA-3	AI画像解析による干潟生物の生息状況の予測手法の開発:研 ○赤松良久(山口大学)・間普真吾(同)・乾隆帝(福岡工業大学)・小山彰彦(熊本大学)・鬼倉徳雄(九州大学)
PA-4	UAVによる空撮画像を用いた出水前後の砂州表層粒径分布変化の推定:事 ○東善広(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)・水野敏明(同)・北井剛(滋賀県北部流域下水道事務所)・小倉拓郎(東京大学)・浅野悟史(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)
PA-5	発信型GPSトラッカーTrackimoを用いた繁殖期におけるフクロウの行動圏把握:研・審 ○児嶋ひろみ(宇都宮大学)
セッションB 環境DNA	
PB-1	環境DNA分析における採水場所の違いが魚類種組成データに与える影響:研 ○渡邊和希(龍谷大学/(株)エイト日本技術開発)・廣原嵩也(龍谷大学)・永峰義寛(中央復建コンサルタンツ(株))・山内寛(同)・重吉実和(同)・芦野洸介(同)・山中裕樹(龍谷大学)
PB-2	環境DNAを用いたコクチバスのダム湖内における分布の季節変遷の把握(セヶ宿ダムの事例):事・審 ○増渕勝也(応用地質(株))・高橋 一(国土交通省セヶ宿ダム管理所)・工藤 勝(同)・坂本正吾(応用地質(株))・播磨さおり(同)・藤田大知(同)
PB-3	奄美大島における環境DNAを用いたリュウキュウアユの生息分布と好適生息環境の解明:研・審 ○河野誉仁(山口大学)・赤松良久(同)・久米元(鹿児島大学)・後藤益滋(日本工営中央研究所)・乾隆帝(福岡工業大学)・栗田喜久(九州大学)
PB-4	天竜川のアユ産卵床分布調査における環境DNA分析の有効性評価:研・審 ○高橋真司(東北大学)・兵藤誠(いであ(株))・山崎弘美(京都大学)・角哲也(同)・竹門康弘(同)
PB-5	環境DNAバーコーディング解析を用いた河川水生昆虫の種多様性の解明 高知県四万十川を例として:研 ○八重樫咲子(山梨大学)
PB-6	四万十川と仁淀川の環境DNA及び底生動物群集のメタバーコーディング解析:研・審 ○石谷直渡(愛媛大)・八重樫咲子(山梨大学)・Joestelle M. S.(愛媛大学/ De La Salle University)・Somar I. F.(愛媛大学/ Central Luzon State University)・渡辺幸三(愛媛大学/ De La Salle University)

【研究発表(ポスター発表)】

「○」発表者、タイトルの後の「研」は研究報告、「事」は事例報告、「審」は審査対象

セッションC 水質

- PC-1 **全国47都道府県の河川・湖沼を対象とした電気伝導率の傾向把握に関する基礎的検討:研・審**
○吉川慎平(大同大学)・鷺見 哲也(同)
- PC-2 **エンサイによる農業用貯水池の水質浄化:研・審**
○大城哲((株)沖縄環境分析センター)・上原敦(同)
- PC-3 **日本全国の河川水温の経年変化:研・審**
○野田洋二(熊本大学)
- PC-4 **嘉瀬川ダム建設による物質輸送への影響:事**
○伊豫岡宏樹(福岡大学)
- PC-5 **流域における堤高の異なる治山ダムと有機物の貯留量:研・審**
○彭瑞欣(九州大学)・笠原玉青(同)
- PC-6 **岩手県大槌町町方地区の自噴井群の2011年津波後の観測:研**
○鷺見哲也(大同大学)

セッションD 河川環境

- PD-1 **植生流出を考慮した河岸侵食の進行過程に関する水理実験:研・審**
○中村俊之(名古屋大学)・尾花まき子(同)・戸田祐嗣(同)・椿涼太(同)
- PD-2 **「実践的な河川環境の評価・改善の手引き(案)」の活用状況と課題(速報):事**
○中村圭吾(土木研究所)・甲斐崇(四電技術コンサルタント(株))・早坂裕幸(いであ(株))・竹内えり子(CTI)・平田真二((株)エコー)・黒石和宏((株)建設環境研究所)・後藤勝洋(リバーフロント研究所)・福島雅紀(国土技術政策総合研究所)・舟橋弥生(国土交通省)
- PD-3 **子供を河川に誘引する底生生物相の把握:研・審**
○小笠原りさ(愛媛大学)・目崎文崇((株)エイト日本技術開発)・三宅洋(愛媛大学)
- PD-4 **描画を用いた「かわまちづくり」への意見聴取の実施ー有馬小学校の子どもが描いた“夢の川”の分析及び他事例との比較ー:研**
○鶴田 舞(土木研究所)
- PD-5 **揖斐川・長良川の高水敷掘削後の土砂再堆積傾向の違いとその要因の分析:研・審**
○角田美佳(岐阜大)・富田浩生(同)・岩田奨平(岐阜県県土整備部)・原田守啓(岐阜大学)
- PD-6 **水辺の小さな自然再生の普及による地域に根差した多様な川づくりの推進:事・審**
○澤田みつ子(リバーフロント研究所/日本河川・流域再生ネットワーク)・和田彰(同)・後藤勝洋(同)・阿部充(同)・佐治史(同)・土屋信行(同)
- PD-7 **間欠流区間における底生動物・魚類の群集動態:水制の保全機能の検討:研・審**
○角田康祐(愛媛大学)・三宅洋(同)・井上幹生(同)
- PD-8 **Sediment microbial diversity and community composition of restored gravel bars in the Trinity River, California:事・審**
○Joeselle M. Serrana (Ehime University)・Bin Li (Ehime University/Shandong Normal University)・Tetsuya Sumi (Kyoto University)・Yasuhiro Takemon(同)・Kozo Watanabe (Ehime University)
- PD-9 **大型鳥類からみた円山川自然再生事業地の評価ーワンド、緩傾斜水際、および副流路の機能ー:研・審**
○植木祐次(兵庫県立大学)・佐川志朗(兵庫県立大学/兵庫県立コウノトリの郷公園)

【研究発表(ポスター発表)】

「○」発表者、タイトルの後の「研」は研究報告、「事」は事例報告、「審」は審査対象

セッションE ハビタット

- PE-1 オオヨシキリ *Acrocephalus arundinaceus* のソングポストの分布に基づくピオトープの環境評価: 事
○大竹邦暁(中電技術コンサルタント(株))・前川尚嗣(同)
- PE-2 豊岡盆地内に広域分布する26か所の水田ピオトープにおける水生動物群集～生物多様性保全に向けた戦略的管理手法の提示～: 研・審
○大逸優人(兵庫県立大学)・桐島杏莉(同)・田和康太(土木研究所)・佐川志朗(兵庫県立大学/兵庫県立コウノトリの郷公園)
- PE-3 メダカ類の水田ピオトープ利用—様々な年級群が棲めるピオトープの特徴—: 研・審
○桐島杏莉(兵庫県立大学)・大逸優人(同)・田和康太(土木研究所)・佐川志朗(兵庫県立大学/兵庫県立コウノトリの郷公園)
- PE-4 DHABSIMによる河川浚渫が魚類の生息状況に与える影響の予測とその検証: 事
○関根雅彦(山口大学)・松永晋平(同)・増田健吾((株)日建技術コンサルタント)

セッションF 河川地形

- PF-1 木曾三川扇状地区間の物理環境はどう違うのか?: 研
○鈴木崇史(岐阜大学)・冨田浩生(同)・吉川敦希(同)・原田守啓(同)・永山滋也(岐阜大学/(株)建設環境研究所)
- PF-2 河道内砂州における粒状有機物の分解過程: 研・審
○尾花まき子(名古屋大学)
- PF-3 阿蘇地域におけるEco-DRR計画立案にむけた災害リスク低減に寄与する土地利用構造と水害防備林の特徴: 研・審
○山下大佑(熊本大学)・浅田寛喜(同)・脇村真平(同)・皆川朋子(同)
- PF-4 多変量解析を用いた崩壊土砂の下流域への流出に及ぼす要因分析: 研・審
○浅田寛喜・皆川朋子(熊本大学)

セッションG ダム湖・ダム下流

- PG-1 嘉瀬川ダム完成後のダム湖周辺におけるテンの活動場所と活動性、食性の変化: 研
○徳田 誠(佐賀大学)・安達大貢(同)・中村頌湧(同)・荒井秋晴(北九州市)
- PG-2 長安口ダム下流への置土が砂州の陸生節足動物に及ぼす影響: 研・審
○中西淳(徳島大学)・河口洋一(同)・藪原佑樹(同)
- PG-3 ダム湖におけるミサゴの狩場特性—環境特性と表層魚類調査による分析—: 研・審
○佐藤 和人(岩手大学)・榊原 貴之(同)・東 淳樹(同)

【研究発表(ポスター発表)】

「○」発表者、タイトルの後の「研」は研究報告、「事」は事例報告、「審」は審査対象

セッションH 産卵場

PH-1 都市河川における河床地形の変化とサケ産卵環境への影響について:研

○有賀望(SWSP/札幌市豊平川さけ科学館)・田健太郎(SWSP/水産研究・教育機構北海道区水産研究所)・有賀誠(SWSP/明治コンサルタント(株))・植田和俊(SWSP/パブリックコンサルタント(株))・渡辺恵三(SWSP/(株)北海道技術コンサルタント)・中村太土(SWSP/北海道大学)

PH-2 耳川水系におけるアユの天然産卵場と人工産卵場の産卵状況について:事・審

○井原高志(西日本技術開発(株))・齋藤剛(同)・西村公美賀(九州電力(株))

PH-3 平面二次元河床変動解析モデルによる長良川扇状地区間のアユ産卵場適地評価:研・審

○塩澤翔平(岐阜大学)・原田守啓(同)・加藤大暉(大日コンサルタント(株))

PH-4 サクラマス産卵場における粒径集団の特徴と画像による評価手法の検討:研・審

○三宅孝明(山形大学)・渡邊一哉(同)

PH-5 河床の粒径集団の違いに着目したサクラマスの産卵場決定に関する実験的検証:研・審

○菊田将太郎(山形大学)・佐藤可菜恵(同)・渡邊一哉(同)

セッションI 魚類

PI-1 中小河川における水際部の環境が淡水魚類群集に及ぼす影響:研・審

○松寺駿(名古屋大学)・森照貴(土木研究所)・肘井直樹(名古屋大学)

PI-2 河川性魚類の群集構造に対する水深の影響と標高の依存性:研

○森照貴(土木研究所)・末吉正尚(同)・石山信雄(北海道大学/道総研/林試)・中村圭吾(土木研究所)・萱場祐一(同)

PI-3 潜在分布範囲に基づく生息域の大きさと河川性魚類の在不在の関係性:研

○末吉正尚(土木研究所)・森照貴(同)・永山滋也(岐阜大学)・石山信雄(道総研)・中村圭吾(土木研究所)・萱場祐一(同)

PI-4 徳島市国府町の以西用水における魚類の生息場改善の効果検証:研・審

○桑名志(徳島大学)・河口洋一(同)・岩瀬晴夫((株)北海道技術コンサルタント)・勝間健二(以西用水土地改良区)

PI-5 大阪湾の直立護岸水域におけるアユ仔稚魚の出現状況と生息場の課題:研・審

○中筋 祐司(京都市役所)・竹門康弘(京都大学)

PI-6 徳島県日和佐川に設置した可搬魚道における底生性通し回遊種の遡上状況:研・審

○齋藤 稔(山口大学/四国の右下生き物研究会)・小部博正(NPO法人日和佐まちおこし隊)・米澤隆志(同)・高橋直己(香川高等専門学校)・米澤孝康(四国の右下生き物研究会)・赤松良久(山口大学)・岡直宏(徳島大学)・浜野龍夫(山口大学)

【研究発表(ポスター発表)】

「○」発表者、タイトルの後の「研」は研究報告、「事」は事例報告、「審」は審査対象

セッションJ 植生

- PJ-1 **兵庫県円山川水系における地域と連携したフジバカマの保全の取り組み:事**
田中祐行(国土交通省豊岡河川国道事務所)・○若宮慎二(復建調査設計(株))・二神良太(同)・服部保(兵庫県立南但馬自然学校)
- PJ-2 **ヨシやオギなどの草本による河川の樹林化抑制に関する研究:研・審**
○兼頭淳((株)建設技術研究所/土木研究所)・森照貴(土木研究所)・大石哲也(同)・中村圭吾(同)・萱場祐一(同)
- PJ-3 **Study on structure and ecological functions of secondary mangrove forests for introducing silvofishery system to shrimp culture ponds at the Lam River estuary:研**
高橋和也(ビン大学)・Tran Thi Tuyen(同)・○松並志郎(応用地質(株))
- PJ-4 **球磨川坂本地区におけるシカの食害と斜面崩壊について:事**
○森山聡之(福岡工業大学)・つる詳子(自然観察指導員熊本県連絡会)

セッションK 鳥類

- PK-1 **河川水辺の国勢調査を利用した涉禽類の時間的な出現傾向の把握:研・審**
○田和康太(土木研究所)・森照貴(同)・萱場祐一(同)・中村圭吾(同)
- PK-2 **オジロワシの環境選択性の解明:研・審**
○山内彬弘(徳島大学)
- PK-3 **北海道の猛禽類の生態と分布**
○工藤晃央((株)ドーコン)・藤巻裕蔵(帯広畜産大学名誉教授)・天野拓郎(日本工営(株))・石原英昭(北海道電力(株))・石山浩一((株)森林環境リアライズ)・一北民郎(北電総合設計(株))・大坪二郎(いであ(株))・紀國聡((株)建設技術研究所)・小林功(パシフィックコンサルタンツ(株))・瀧本育克((株)建設環境研究所)・玉田克巳(北海道立総合研究機構 環境科学研究センター)・玉田祐介((株)長大)・土屋尚((株)北海道技術コンサルタント)・平井克亥(北海道ラプターコンサベーション)・山口珠輝((株)ドーコン)・山田芳樹(同)(以上、北海道猛禽類研究会)

【研究発表(ポスター発表)】

「○」発表者、タイトルの後の「研」は研究報告、「事」は事例報告、「審」は審査対象

セッションL 底生動物PL-1 **河床安定性の定性的評価による出水攪乱が平地河川の底生動物に及ぼす影響の解明 : 研・審**

○上田航(愛媛大学)・福崎健太(同)・三宅洋(同)

PL-2 **都市河川において河岸植生が底生動物の出水攪乱への反応に及ぼす影響 : 研・審**

○福崎健太(愛媛大学)・上田航(同)・三宅洋(同)

PL-3 **マコモ群落の刈取り及び除根が水生昆虫群集に及ぼす影響 : 研・審**

○服部陽汰(佐賀大学)

PL-4 **宮崎県小丸川水系における餌資源因子に着目した底生動物予測モデルの構築 : 研・審**

○糠澤桂(宮崎大学)・有働祐也(同)・鈴木祥広(同)

PL-5 **矢作川水系上流におけるヨウケルカワゲラ、キカワゲラの生活史 : 研・審**

○市川隼也(愛知工業大学)

PL-6 **高津川における平成30年7月豪雨による出水に対する河川生物の応答と回復傾向の把握 : 研・審**

○小林勘太(山口大学)・赤松良久(同)・乾隆帝(福岡工業大学)・齋藤稔(山口大学)・河野誉仁(同)

PL-7 **岩盤河床の礫河床への復元に向けた取組みの底生動物による評価 : 事・審**

○布川雅典(土木研究所), 渡辺恵三((株)北海道技術コンサルタント)・小玉崇(北海道空知総合振興局札幌建設管理部事業課)・土屋洋明((株)福田水文センター)・藤井和也(同)

【研究発表(ポスター発表)】

「○」発表者、タイトルの後の「研」は研究報告、「事」は事例報告、「審」は審査対象

セッションM 外来種

- PM-1 沖縄県都市河川における自動撮影カメラを用いた外来性の浮葉植物のモニタリング手法と繁茂の仕組み: 事・審
 ○平中晴朗(沖縄環境調査(株))・萩原一貴(同)・金城樹(同)・山本一生(同)・照屋寛之(沖縄県中部土木事務所)・山城正将(同)・富原守秀(同)
- PM-2 ブラジルチドメグサ等外来水生植物の効率的収集装置の開発: 研・審
 進藤俊則((株)エイト日本技術開発)・○西岡樹(同)
- PM-3 外来種アメリカザリガニの駆除に用いるペットボトル製トラップの構造と使用時期: 研
 ○中田和義(岡山大学)・福井大希(岡山大学/(株)ウエスコ)
- PM-4 三春ダムにおけるブルーギルの試験的防除でみられた確認状況の変化: 事・審
 ○坂本正吾(応用地質(株))・稲川崇氏(同)・中井克樹(滋賀県立琵琶湖博物館)・大杉奉功(一般財団法人水源地環境センター)・中川博樹(国土交通省三春ダム管理所)・片寄仁(同)
- PM-5 大規模出水時のオオカナダモの流失特性の検討: 研・審
 ○児玉貴央(山口大学)・赤松良久(同)・宮園誠二(同)・山口皓平(山口大学)
- PM-6 ホテイアオイ(*Eichhornia crassipes*)における鉛及び銅の蓄積に関する比較研究;ファイトレメディエーションの基礎研究として: 研・審
 ○中田愛理(洗足学園中学高等学校)
- PM-7 外来沈水植物オオカナダモの河床定着要因に関する基礎的実験: 研・審
 ○山口皓平(山口大学)・赤松良久(同)・福井慶一郎(北九州市)・乾隆帝(福岡工業大学)・河元信幸(山口大学)
- PM-8 被食者としての外来魚: 上位捕食者からダム生態系管理を考える: 研・審
 ○榊原貴之(岩手大学)・森航大(同)・野口将之(同)・吉井千晶(㈱建設技術研究所)・東淳樹(岩手大学)
- PM-9 水草に対する環境ストレス評価に関する研究: 研・審
 ○松尾明彦(埼玉大学)・浅枝 隆(同)

【研究発表(口頭発表)】

○発表者、タイトルの後の研は研究報告、事は事例報告、審は審査対象

口頭発表 9月28日(土) ー2日目ー 9:00~14:00 [会場:C206]

セッションA 環境DNA

- 9:00 OA-1 **環境DNA技術を用いた手軽なイワナ在来個体群判定の試み:事**
 中山真二(国土交通省黒部河川事務所)・中川雅允(国土交通省神通川水系砂防事務所)・千財利治(国土交通省富山河川国道事務所)・○澤樹征司((株)建設技術研究所)・柴田閑(同)・吉井千晶(同)・川尻啓太(同)・那須正英(同)
- 9:15 OA-2 **砂防域の環境調査における環境DNA分析の有効性:事**
 ○横山良太((株)建設環境研究所)・赤沼隼一(国土交通省 北陸地方整備局 湯沢砂防事務所)・長谷川真英(同)・浅野保夫(同)・川邊三寿帆(同)・笛木久美(同) 島村彰((株)建設環境研究所)・関根洋(同)
- 9:30 OA-3 **iSeqおよびMiSeqを用いた環境DNAメタバーコーディングにおける魚類の検出能力の比較検討:研・審**
 ○中尾遼平(山口大学)・赤松良久(同)・乾隆帝(福岡工業大学)・後藤益滋(日本工営(株))・松岡俊将(兵庫県立大学)・土居秀幸(同)
- 9:45 OA-4 **環境DNA 技術によるハクバサンショウウオの検出感度について:事・審**
 ○土井康義((株)建設技術研究所)・川尻啓太(同)・澤樹征司(同)・長野紀章(同)・鈴木荘司(同)
- 10:00 OA-5 **サーバーネット採集法と環境DNAによる台風攪乱に対する底生動物群集構造の応答観測:研・審**
 ○内田典子(東北大学)・久保田健吾(同)・会田俊介(同)・風間聡(同)

セッションB 魚類生態

- 10:15 OB-1 **流域地質が河川上流域の水温および冷水性魚類の分布・生活史に与える影響:研**
 ○石山信雄(北海道立総合研究機構)・鈴木開士(北海道大学)・小泉逸郎(同)・中村太士(同)
- 10:30 OB-2 **石狩川旧川群における肉食性外来魚類の分布状況と食性把握について:事・審**
 ○藤井和也((株)福田水文センター)
- 10:45 OB-3 **農業用排水路における魚巢の規模と配置が堆砂に及ぼす影響:研**
 ○前田滋哉(茨城大学)・高木翔太(同)・吉田貢士(同)・黒田久雄(同)
- 11:00 OB-4 **粗石魚道の粗度配置の違いとウグイの遊泳行動:研・審**
 ○船越智瑛(東洋大学)・青木宗之(同)・佐藤大誠(同)・末吉祥太(同)
- 11:15 OB-5 **静水時における河床材料の違いとそれに対するウグイの選好特性について:研・審**
 ○横田星二(東洋大学)・青木宗之(同)・阿部憲(同)・金子昌平(同)
- 11:30 OB-6 **縦断方向の円柱の設置間隔の違いによるウグイの円柱群利用状況について:研・審**
 ○明間大輝(東洋大学)・青木宗之(同)・粕谷周平(同)・五十嵐終哉(同)・飯山拓実(同)
- 11:45 OB-7 **小河川におけるPITタグを用いたナマズの行動解析:事・審**
 ○森 晃(公益財団法人宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団)

12:00~13:00 ー 休憩 ー

【研究発表(口頭発表)】

○発表者、タイトルの後の研は研究報告、事は事例報告、審は審査対象

セッションC 河川管理

- | | | |
|-------|------|--|
| 13:00 | OC-1 | 宮中取水ダム魚道における植生状況調査結果を踏まえた順応的管理:事・審
○青木 崇(東日本旅客鉄道(株))・青木克憲(同)・ 柘本 拓(同) |
| 13:15 | OC-2 | 利根川下流域の河道内氾濫原において試験的に創出した恒久水域におけるイシガイ科淡水二枚貝類等生物の定着と本川からの通水頻度等物理環境との関係性:研・審
○平田真二((株)エコー)・栗山広宣(国土交通省利根川下流河川事務所)・川田千尋((株)エコー)・北村淳一(三重県総合博物館) |
| 13:30 | OC-3 | 木曾川におけるイシガイ科二枚貝類生息環境の10年変化～生息場シフトの重要性と営力依存の限界～:研
○永山滋也(岐阜大学/(株)建設環境研究所)・根岸淳二郎(北海道大学)・原田守啓(岐阜大学)・萱場祐一(土木研究所) |
| 13:45 | OC-4 | 釧路川茅沼地区の旧川復元による湿原植生再生効果の検証:事
○石田憲生((株)ドーコン)・石橋佳明(同)・山本太郎(北海道河川財団)・米坂俊介(同)・佐藤尚樹(北海道開発局釧路開発建設部)・金谷将志(同)・阿部祥一(同) |

【研究発表(口頭発表)】

○発表者、タイトルの後の研は研究報告、事は事例報告、審は審査対象

口頭発表 9月28日(土) ー2日目ー 9:00~14:15 [会場:C314]	
セッションD 河川地形	
9:00	OD-1 河道の平面形状が物理環境と生息場および魚類相に与える影響:研・審 ○大槻順朗(土木研究所)・森照貴(同)・中村圭吾(同)・萱場祐一(同)
9:15	OD-2 天竜川における生息場履歴と底生無脊椎動物の応答特性に関する研究:研 ○兵藤誠(いであ(株))・竹門康弘(京都大学)・角哲也(同)・鳥居高明(いであ(株))
9:30	OD-3 植生の河岸拘束力の違いが蛇行流路の流路変動特性に与える影響:研 ○久加朋子(北海道大学)・井上祐輔(同)・山口里実(寒地土木研究所)・今日出人(北海道大学)・清水康行(同)
9:45	OD-4 木津川における伝統的河川工法「聖牛」の河床地形改変効果:研・審 ○田住真史(京都大学/国土交通省太田川河川事務所)・竹門康弘(京都大学)・小林草平(同)・角哲也(同)
10:00	OD-5 2018年小渋ダム下流で見られた河岸侵食と流路変更:研 ○小林草平(京都大学)・小柴孝太(同)・角哲也(同)・竹門康弘(同)・カントウッシュ サメ(同)
10:15	OD-6 淀川中流域における巨棕池遊水地を活用した治水効果および生態系に関する研究:研・審 ○奥西健斗(摂南大学)・石田裕子(同)・澤井健二(同)・小川芳也((株)近畿地域づくりセンター)・前川勝人(水辺に学ぶネットワーク)
10:30	OD-7 淀川・点野地区に再整備される新設ワンドの持続性に関する研究:研・審 ○山内将之(摂南大学)・石田裕子(同)・玉井理恵(淀川管内河川レンジャー)・小川芳也((株)近畿地域づくりセンター)
セッションE 産卵場	
10:45	OE-1 球磨川下流の汽水域におけるシロウオの産卵場の環境特性:研・審 ○坂本健太郎((株)建設技術研究所)・石原勇輝(同)・森下友博((株)水理環境技研)・鬼倉徳雄(九州大学)
11:00	OE-2 アユの産卵環境はどこまでわかったのか:研・審 藤田朝彦((株)建設環境研究所)・○加藤康充(同)・横山良太(同)
11:15	OE-3 天竜川下流域における湧水流路の形成履歴とアユ産卵床環境との関係:研・審 ○山崎弘美(京都大学)・竹門康弘(同)・高橋真司(東北大学)・兵藤誠(いであ(株))・鳥居高明(同)・角哲也(京都大学)
12:00~13:00	— 休憩 —

【研究発表(口頭発表)】

○発表者、タイトルの後の研は研究報告、事は事例報告、審は審査対象

セッションF ハビタット

- 13:00 OF-1 **衛星画像および地形データを活用したSVMによる河川域植生分類手法:研・審**
○宮脇成生((株)建設環境研究所)・伊川耕太(同), 鈴木研二(日本スペースイメージング(株))・鈴木由紀洋(同)・池内幸司(東京大学)
- 13:15 OF-2 **北海道北部地域におけるオジロワシの潜在生息適地推定:研**
○藪原佑樹(徳島大学)・赤坂卓美(帯広畜産大学)・山田芳樹((株)ドーコン)・河口洋一(徳島大学)
- 13:30 OF-3 **河川における潜在的な親水機能を考慮した環境評価手法の検討 —荒川水系小群川中流部を対象として—:研・審**
○新田将之(東洋大学)・萱野涼(元東洋大学)・金子匠(同)・青木宗之(東洋大学)
- 13:45 OF-4 **ネコギギのハビタットモデルを用いた生息適地選定と環境改善手法の検証:研・審**
○大杉奉功(一般財団法人水源地環境センター)・赤司英治(同)・小澤英樹(いであ(株))・南野洋孝(同)・持山佳成子(国土交通省設楽ダム工事事務所)・山田真理子(同)・今津崇(同)
- 14:00 OF-5 **千曲川中流域の瀬と淵における鳥類の豊富さの比較:研**
○笠原里恵(信州大学)

【研究発表(口頭発表)】

○発表者、タイトルの後の研は研究報告、事は事例報告、審は審査対象

口頭発表 9月28日(土) -2日目- 9:00~11:45 [会場:C316]

セッションG 底生動物

- 9:00 OG-1 千曲川中流域におけるユスリカ類の二次生産力の推定: 研
○平林公男(信州大学)・岡田峻典(同)
- 9:15 OG-2 ムナグロナガレトビケラの生活環と成長に伴う生息場所移動および近縁種幼虫との形態的区別: 研・審
○平 祥和(大阪府立大学/大阪自然史博物館)
- 9:30 OG-3 Effect of sewerage development on the water quality and invertebrate assemblages in the Shigenobu River: 研・審
○Satrio Budi Prakoso (Ehime University)・Yo Miyake (同)
- 9:45 OG-4 矢作川国附の瀬における河道微地形と底生動物の関係: 研
○内田 臣一(愛知工業大学)
- 10:00 OG-5 イシカリミドリカワゲラ(*Alloperla ishikariana*)成虫の河川横断方向における分布: 研・審
○中川智裕(北海道大学)・根岸淳二郎(同)・中村太士(同)

セッションH 保全対策

- 10:15 OH-1 連続4日間にわたるオオサンショウウオの保護・移転 ～川上ダム転流時～: 事・審
○竹内義幸((株)建設技術研究所)・鍵田和彦(水資源機構)・清水杏子(同)・安齋 和彦((株)建設技術研究所)・瀧沢凌昌(同)
- 10:30 OH-2 円山川水系鎌谷川におけるニホンイシガメの越冬場所特性-現状の低水護岸工における課題-: 研・審
○伊藤岳(兵庫県立大学)・佐川志朗(兵庫県立大学/兵庫県立コウノトリの郷公園)
- 10:45 OH-3 ミサゴを対象とした人工巣設置による営巣地誘導: 事・審
○齋藤綾佑(北電総合設計(株))・佐藤幸樹(同)
- 11:00 OH-4 元の生育環境に配慮したアサザ群落保全の取り組み: 事・審
高橋晃浩(国土交通省常陸河川国道事務所)・堀 裕和((株)建設技術研究所)・山口彩花(同)・長野紀章(同)・土井康義(同)
- 11:15 OH-5 霞ヶ浦における湖岸植生帯の現状と保全対策施設の効果について: 事・審
○大石三之((株)建設技術研究所)・渡邊敬史(同)・土方淳(同)・永井一郎(国土交通省下館河川事務所)・小野正人(国土交通省利根川下流河川事務所)
- 11:30 OH-6 相補性解析を用いた石狩川旧川・湖沼群の保全優先度の設定: 研・審
○植村郁彦((株)ドーコン)・小本智幸(同)・熊木朋子(北海道開発局札幌開発建設部)・根岸淳二郎(北海道大学)

応用生態工学会 第23回広島大会 開催案内

開催日時 2019年(令和元年)9月27日(金)～9月30日(月)

日程: 9月27日(金) 研究発表(ポスター発表), 自由集会
 9月28日(土) 研究発表(口頭発表), 自由集会, 懇親会
 9月29日(日) 役員会・総会(午前), 公開シンポジウム(午後)
 9月30日(月) エクスカーション(温井ダム見学 他)

会場: 広島大学 東広島キャンパス, <研究発表>口頭発表: 生物圏科学研究科C棟,
 ポスター発表: 大学会館(広島県東広島市鏡山一丁目4番4号, 5号)
 <総会・公開シンポジウム> 理学研究科E棟(広島県東広島市鏡山一丁目3番1号)

本大会は、建設コンサルタンツ協会継続教育(CPD)プログラムに申請予定。

参加申し込み(研究発表会・総会・エクスカーション)

URLの申し込みフォームで受け付けます。また、ファックスでの申し込みも可能です。参加申込書(裏面)に必要事項を記入の上、右記へアクセスして下さい。なお、詳細は裏面をご参照ください。

●申し込みおよび問合せ先
 応用生態工学会事務局

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7-5

麹町ロイヤルビル405号室

TEL:03-5216-8401 FAX:03-5216-8520

E-mail: 23th_hiroshima_secretariat@ecesj.com

[大会実行委員長:山本民次(広島大学大学院教授)]

公開シンポジウム「ここまで進んだ生態系観測技術の最前線」

<日時> 2019年(令和元年)9月29日(日曜日) 13:00～17:00

<場所> 広島大学東広島キャンパス 理学研究科E棟 1F E102講義室

公開シンポジウム

参加費: 無料

<開催主旨>

環境DNAをはじめとする新たな観測技術が生態系評価に用いられるようになりましたが、これらの新技術の利用は、まだ一部の研究者や技術者に限られています。今後の更なる普及のためには、一般市民を含む河川に関わる多くの人々に情報共有を図る必要があります。本シンポジウムでは、これらの活用が進んでいる海外からの複数の講演者も招いた講演会により国内外の先端事例を共有すると共に、パネルディスカッションを通じて新たな観測技術の今後の可能性や問題点の議論を行います。

<プログラム> ※タイトルは仮題

13:00～13:05 挨拶・趣旨説明 渡辺幸三(愛媛大学教授, 応用生態工学会国際交流委員長)

13:05～13:50 招待講演1 「DNAに基づく空間的・時間的な環境評価」

Mehrddad Hajibabaei (ゲルフ大学(カナダ) 准教授)

13:50～14:35 招待講演2 「現場自動観測を用いた藻類ブルームの理解と予測」

Francesco Pomati (スイス連邦水科学技術研究所 上席研究員)

14:35～14:55 講演1 「環境DNA検出・メタバーコーディングによる生物多様性評価手法」

土居秀幸(兵庫県立大学 准教授)

14:55～15:15 講演2 「統計にはもう頼らない? 機械学習の発展から見たデータ解析の最前線」

梁政寛(ベルリン自由大学(ドイツ) JSPS海外特別研究員)

15:15～15:35 講演3 「先端技術を用いた川づくり」

舟橋弥生(国土交通省調整官)

15:35～15:45 <休憩>

15:45～17:00 パネルディスカッション

コーディネーター: 渡辺幸三, パネリスト: 講演者5名

17:00 終了予定



河川基金 公益財団法人河川財団による
 河川基金の助成を受けています。

後援予定

：国土交通省中国地方整備局、河川財団、建設コンサルタンツ協会中国支部、
 土木学会中国支部、日本緑化工学会、日本景観生態学会

会場と交通 (研究発表会・懇親会・公開シンポジウム)

【会場】

広島大学 東広島キャンパス

〈研究発表〉

(口頭発表:生物圏科学研究科C棟)(ポスター発表:大学会館)
〒739-8528 広島県東広島市鏡山一丁目4番4号, 5号

〈総会・公開シンポジウム〉

(理学研究科E棟)
〒739-8526 広島県東広島市鏡山一丁目3番1号
URL: <https://www.hiroshima-u.ac.jp/>

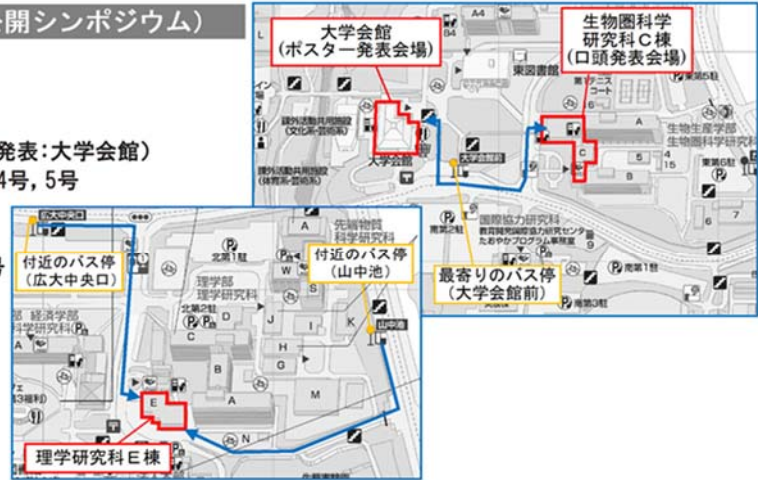
【交通】

〈JR山陽新幹線〉

「広島」駅から約30分(東広島駅経由)
※バスは平日のみ運行

〈JR山陽本線〉

「広島」駅から約60分(西条駅経由)



参加費 (研究発表会・懇親会・エクスカージョン)

研究発表会 正会員・賛助会員:6,000円, 非会員:10,000円, 学生(会員・非会員)3,000円

参加費には発表講演集代が含まれております。発表講演集のみ希望の方は、3,000円で販売しております。

※大会期間中は9月27日(金)のみ学食の営業があります。(28日(土)は一部店舗のみ営業)。飲食店、スーパーマーケット、コンビニエンスストアがあります。別途1,000円でお弁当の用意ができます。必要な方は参加申込みと同時に申し込みにください。

エクスカージョン 会員(正会員・賛助会員):2,000円, 非会員:3,000円, 学生(会員・非会員):1,000円

懇親会 会員(正会員・賛助会員)・非会員5,000円, 学生(会員・非会員)3,000円

※事前振込(9月13日まで)いただいた場合は、正会員・非会員は1,000円の、学生会員は500円の割引となります。

参加費振込先 (研究発表会・懇親会・エクスカージョン)

銀行振込口座

銀行名 :三菱東京UFJ銀行麹町中央支店
口座番号:(普通)1302920
口座名称:応用生態工学会(オウヨウセイタイコウガクカイ)

郵便振替口座

口座番号:00140-7-404275
口座名称:応用生態工学会

申込締切りは2019年9月6日(金)迄
振込締切りは2019年9月13日(金)迄

参加申込書 (研究発表会・懇親会・エクスカージョン)

URL: https://www.ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=annual_conEntry

FAX 宛先 03-5216-8520 E-mail: 23th_hiroshima_secretariat@ecesj.com

氏名			会員No.(正・学生・賛助)	
所属				
連絡先 (自宅・所属) いずれかに○	〒住所	e-mail:		
	参加申込		参加費(必要箇所)に✓	
研究発表会 (発表要旨集代込)	9月27日(金)~28日(土)	参加・不参加	<input type="checkbox"/> 会員(6,000円) <input type="checkbox"/> 非会員(10,000円) <input type="checkbox"/> 学生(会員・非会員)(3,000円)	
懇親会	9月28日(土)	参加・不参加	<input type="checkbox"/> 会員・非会員(5,000円) <input type="checkbox"/> 学生(会員・非会員)(3,000円)	
シンポジウム	9月29日(日)	参加・不参加	無料	
エクスカージョン	9月30日(月) ※定員になり次第、締め切ります。	参加・不参加	<input type="checkbox"/> 正会員・賛助会員(2,000円) <input type="checkbox"/> 非会員(3,000円) <input type="checkbox"/> 学生(会員・非会員)(1,000円)	
昼食の注文	9月27日(金)分	必要・不要	<input type="checkbox"/> 必要(1,000円)	大会期間中は9月27日(金)のみ学食の営業があります。(28日(土)は一部店舗のみ営業)。会場周辺(徒歩20分程度)には飲食店、スーパーマーケット、コンビニエンスストアがあります。
	9月28日(土)分	必要・不要	<input type="checkbox"/> 必要(1,000円)	
	9月29日(日)分	必要・不要	<input type="checkbox"/> 必要(1,000円)	
研究発表会に参加しないが、発表要旨集のみ希望 (研究発表会に参加される方は研究発表会参加費に発表要旨集代が含まれています。)				
参加費の合計			合計	円 ⇒ 事前振込割引額 円※
連絡事項	※事前振込割引について:研究発表会の参加費については、9月13日(金)までに振込いただいた場合は、正会員・非会員は1,000円、学生会員は500円の割引となりますので、研究発表会の参加費から割引した金額を振り込み下さい。請求書を希望する場合は「請求書希望」と記載してください。			

4 次期役員募集・推薦委員会報告

次期役員募集・推薦委員会

委員長：江崎保男会長

委員：近藤 徹元会長

谷田一三元会長

辻本哲郎前会長

今年度は役員改選年にあたり、本年6月1日から6月30日までの期間で、次期役員候補の募集を行いました。この結果、募集期間内に会長候補1名、副会長候補3名、理事候補11名、監事候補2名の計17名の届出がありました。これを受けて、7月18日に第2回次期役員募集・推薦委員会を開催し、届出のあった17名全員を候補として受け付けることを決定しました。

また、理事候補については、届出による候補者が11名であったため、定数上限15名との差4名について、委員会として候補者を推薦しました。

以上により、本年9月29日に開催される第23回総会での選出に諮る次期役員候補者が次のとおり決まりましたので、ご報告します。

+++++

〔次期会長候補：1名〕（敬称略）

甲村 謙友（新任） 一般財団法人国土技術研究センター理事長

〔次期副会長候補：3名〕（再任・新任の順、五十音順、敬称略）

浅枝 隆（再任） 埼玉大学名誉教授

占部城太郎（新任） 東北大学大学院生命科学研究科教授

高村 典子（新任） 国立研究開発法人国立環境研究所生物・生態系環境研究センター
琵琶湖分室フェロー

〔次期理事候補：15名〕（再任・新任の順、五十音順、敬称略）

浅見 和弘（再任） 応用地質株式会社技術本部技師長室技師長

池内 幸司（再任） 東京大学大学院工学系研究科教授

島谷 幸宏（再任） 九州大学大学院工学研究院教授

杉尾 哲（再任） 宮崎大学名誉教授

中村 太士（再任） 北海道大学大学院農学研究院教授

西 浩司（再任） いであ株式会社国土環境研究所環境技術部技師長

藤田 乾一（再任） 株式会社大林組土木本部顧問

武藤 裕則（再任） 徳島大学大学院社会産業理工学部教授

東 信行（新任） 弘前大学農学生命科学部教授

久保田 勝（新任） 東北電力株式会社顧問

佐川 志朗（新任） 兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科教授

関根 秀明（新任） 株式会社建設技術研究所東京本社環境部部長

竹門 康弘（新任） 京都大学防災研究所水資源環境研究センター准教授

藤田 光一（新任） 公益財団法人河川財団河川総合研究所所長

益岡 卓史（新任） 株式会社建設環境研究所技術本部副本部長

〔次期監事候補：2名〕（五十音順、敬称略）

成田 賢（再任） 応用地質株式会社代表取締役社長

渡辺 綱男（再任） 一般財団法人自然環境研究センター上級研究員